

平成28年度あきた型学校評価

秋田県立能代支援学校

評価領域

学習指導

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の資源を活用した魅力ある教育活動を推進する。</li> <li>地域と共に活動し、地域に貢献する教育活動を展開する。</li> </ul>		
現 状	<p>「拓く」の学校教育目標のもと、学校生活の様々な場面で地域とのつながりが広がっている。小学部・中学部・高等部それぞれに、人と関わる力や地域に貢献する意識を高めるよう努力している。</p>		
具体的な目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程コーディネーターやミニマムスタンダードを活用して、授業を改善していく仕組みを明らかにして実践する。</li> <li>児童生徒の変容を通して地域と関わる学習と日々の授業の関連を明確にして教育活動を展開する。</li> </ul>		P
目標達成のための方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>教務と研究部が中心になり、全職員が教育課程編成の仕組みを理解して実践する。</li> <li>日々の授業と地域と関わる学習の関連を踏まえて、児童生徒の具体的な目標や指導内容及び指導方法を検討し、事例研究に取り組む。</li> <li>授業研究会を通し、ミニマムスタンダードの活用や授業改善の流れ、研究協議会の進め方や職員間の共有ツールなどを検討する。</li> <li>地域の人材やイベントなどの情報を集め、学部の重点や児童生徒のねらいに合わせて活用できる地域の資源を選択する。併せて、児童生徒の実態を考慮して適切な指導内容や指導方法を協議し、地域と関わる学習活動の質を向上する。</li> </ul>		
具体的な取組状況と達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度初めの全体研究会では、全職員が十分に意見交換できるようにグループ協議を設定し、理解を図った。</li> <li>年3回の教育課程連絡協議会（比内支援学校、かつの校、たかのす校の研究主任と総括教務主任及び本校の各学部主事と研究リーダーが参加）を通して、他校職員の意見を参考にして実践を振り返り、より良い仕組みになるよう改善を図った。</li> <li>学部の授業づくりでは、授業のロールプレイを計画的に取り入れ、学部職員の意見を集約しながら指導内容や指導方法を検討した。</li> <li>児童生徒や保護者、職員、地域の交流先の方から中間と年度末の2回、評価のアンケート調査を実施し、達成状況の参考にした。</li> </ul>		D
自己評価	A	<p>各学部で授業のロールプレイを実施し、研究授業の担当者以外の職員も皆で授業を作る環境が整った。地域と関わる学習と日々の授業の関連も明確になり、地域の方と交流する場面は児童生徒が本物の経験をする場と認識できた。</p>	C
↑ 評価基準 ↓	<p>A：具体的な活動がなされ目標を達成できた                  B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない                  C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>		
	学校関係者評価と意見	A	<p>多様な地域と関わる学習が展開され、確かな学びにつながり、児童生徒の変容が明らかになっている。新聞等、マスコミに取り上げられる機会も多くなり、支援学校での学習の様子が、地域の方に広く知られるようになっていく。</p>
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<p>今後は「社会に開かれた教育課程の編成」として、児童生徒の目指す姿と地域の方の願いとを共有できる学習活動のねらいを達成できるように計画を練っていきたい。その上で、「森の中の学校プロジェクト」の取組や各学部の実践と、小グループの協議を継続し、テーマに沿った職員間の意見交換を一層充実させていきたい。</p>		A